第三種郵便物認可　信濃毎日

千曲「雨宮の渡し」石碑の歴史たどる

市内に疎開経験ある都内の桜井さん

建立の経緯まとめ 自費出版

戦国時代の「川中島の戦い」で上杉謙信が千曲川を渡った「雨宮の渡し」を顕彰する石碑について、都内の自営業桜井孝三さん(84)が、建立の経緯などをまとめた『雨宮の渡し』詩碑建立の真実』を自費出版した。石碑は千曲市雨宮にある。桜井さんは戦時中、市内に疎開した経験があり、石碑のある一帯は当時の遊び場。独自に調べた資料に基づき、これまで知られていなかった建立の経緯を掘り起こした。

雨宮の渡しの石碑建立の経緯などをまとめた桜井さん

川中島の戦いの当時、千曲川は現在より1キロほど南側を流れていた。戦いをしのび、渡河場所は現在、公園になっている。石碑は住民らによる組織が建立し、1941(昭和16)年に除幕。幕末の儒学者頼山陽が川中島の戦いについて「鞭声粛々夜河を過る」などと詠んだ漢詩が刻まれている。

桜井さんは母親が千曲市出身。東京都調布市で印刷会社を営む。今回の本を出版したきっかけは2007年、都内の書店で頼山陽についての古書「山陽遺墨選」を手に取り、その中で「鞭声粛々…」と記された掛け軸の写真を見つけたことだ。疎開した頃、石碑周辺で遊んだことから目に留まったという。古書に載っている掛け軸が石碑の原本ではないかと考え、建立の経緯を調べ始めた。

仕事の合間に、当時の関係者を探したり、新聞記事を読んだり。建立に尽力した人々をより詳しく知るため、関係者の子孫を訪ね、建立に向けた組織の発足から石碑完成までをたどることができる複数の手紙を入手した。

それらを踏まえて今回の本では、石碑建立のきっかけの一つに、36年に昭和天皇の弟、故高松宮宣仁親王(1905～87年)の長野訪問があったことを紹介。上杉軍が本陣を構えた妻女山(長野市松代地区)を訪ねた際に雨宮の渡しの場所を尋ねられたことから、40年に石碑建立に向けた組織が発足したという。

一方、石碑に刻まれた文字は従来、わかもと製薬(東京)の創業者長尾欽弥氏が所蔵していた「鞭声粛々…」の真筆を組織の関係者が撮影した写真を基にしているとされてきた。だが、建立の計画が進んでいた頃、長尾家は真筆を別の人に譲渡し、手元にない―との内容の手紙を発見。従来の事実が異なっていることが分かった。

その後、組織の関係者の別の手紙を調査。広島県の山陽の顕彰会から提供された本に載っていた掛け軸の写真を基にしたことを突き止めた。

桜井さんは「この本が雨宮の渡しに多くの人が関心を持つきっかけになればうれしい」と話している。A5判で224ページ、税別2千円。カラー印刷。千曲市の西沢書店などで販売している。問い合わせは、西沢書店(☎026・272・2174)へ。

や高校も左足はっかりで蹴り

ホーム戦日程

J3・AC長野　22日午後5時　秋田戦　長野Uスタジアム

協定書に署名する河村学長(右)と森本校長

同大によると、昨年度はリニアモーターカーの基礎理論や太陽電池の性能向上など四つの課題研究で助言し、本年度もロボット開発など三つで予定している。

4月に公立化した同大は、昨年度までに池田、松本、岡谷、駒ケ根の各工業高校や諏

市)の選手ら29人がこのほど千曲市更埴庁舎で岡田昭雄市長に大会出場を報告した。26日に津市で始まる大会に向け、選手たちは「1勝を目指す」と力強く抱負を語った。

長野南高が男子、屋代高が女子の県代表。選手らは「県代表としての自覚を持ち全力で

抱負を述べた

きな目標を達成

頑張ってください

ともに3年で

の唐沢将太さん

勝するための準

スピードを武器

いついていきた

イベント

◇長野市【演劇バザール】21日午後10時10分、午後2時の2回、旭町の県ホール☎026・235・5。定員各150人。

講演

◇長野市【薬剤に頼らない健康法】時、下駒沢の県障センター「サンアップ」の宇多川久美子さん らず健康に過ごす(ひけつ)について

私のしょう

才のときに、

うちに、「小

と思いました

めにはどうし

ためには、パ

い子のおせっ

だから、習(

んばり、妹を